

活きた金融教育を目指して

～地域と学ぶ経済の仕組み～

金融教育の現場レポート

「金融教育」は、社会の中で生きる力を育てることを目的として行われる教育です。この「コーナー」では、金融教育の授業がどのように進められているか、教育現場に立つ先生や、授業を受ける生徒の姿をレポートします。今回は、鳥取県米子松蔭高等学校の塚本保夫教諭が、商業科の総合実践のなかで行っている金融教育の取り組みについて紹介します。

地域連携と金融教育のはじまり

平成20年度と21年度の2カ年にわたり、金融教育研究校の委嘱を受けた米子松蔭高等学校。担当教諭に任命された塚本先生は、金融教育と聞いてふと「自己破産や金銭トラブルは地域でもよくある話だ」と「まちづくり連絡会」で話題になっていたことを思い出します。同校は平成19年から地域のまちづくり活動に参加するモデル校（教育機関では同校と高等専門学校のみ）として、地元の産官学関係者で組織する『まちづくり連絡会』に加盟していました。そこで、その『まちづくり連絡会』の力を借りて「教育実践」の場で、「地域経済」を学びながら金融の知識も同時に身に付けていけるような特別カリキュラムを組めないかと考えまし

■2カ年の特別授業カリキュラム表

20年度の「金融教育特別授業」

テーマ	場所または講師役など
第1節・地域経済と起業の大切さ	
信用ってなに？	地元信用金庫
現代の金融トラブルに学ぶ	米子市役所
地域経済と金融の関わり何故、米子は商都となったのか？	地元信用金庫 地元起業家
起業家の講演	まちづくり連絡会
まち探検（商店街見学）	まちづくり連絡会
すてきなお店を見つけよう	まちづくり連絡会
地域経済と起業の大切さ	米子松蔭高校
商品知識とマーケティング	中小企業診断士
今求められるビジネスとは	中小企業診断士
第2節・ビジネスモデルの構築	
商品知識とマーケティング	米子松蔭高校
今求められるビジネスとは	米子松蔭高校
ビジネスモデルの検討	米子松蔭高校
プレゼンテーション準備	米子松蔭高校
第3節・地域とのコミュニケーション	
プレゼンテーション練習	米子松蔭高校
地元信用金庫本店	米子松蔭高校
まちづくり連絡会でのプレゼン	米子松蔭高校
地元信用金庫本店見学	地元信用金庫
感想・反省	米子松蔭高校

21年度の「金融教育特別授業」

テーマ	場所または講師役など
第1節・身近な進路と経済問題について考える	
特別授業の内容と今後の進め方	オリエンテーション
現代の金融トラブルに学ぶ	米子市役所
消費とその問題	弁護士
消費者問題の側面から	弁護士
消費とその問題	情報センター山陰
金融問題の側面から	情報センター山陰
第2節・地域と経済について	
信用って何？	地元信用金庫
地域経済と金融の関わり	地元信用金庫
地域経済を見てみよう	米子松蔭高校
米子市役所で説明を受けた後	地元信用金庫
商店街見学・聞き取り調査	米子市役所
地域経済の変遷	米子商工会議所
地域経済	米子商工会議所
中心市街地活性化の必要性	米子商工会議所
第3節・お金の運用	
お金の運用（預金）	地元信用金庫
お金の運用（株式）	大手証券会社
株式投資シュミレーションゲーム	大手証券会社
株式投資シュミレーションゲーム	大手証券会社
第4節・進路について	
仕事に就くこと	ハローワーク米子
起業と言う選択肢	地元で起業を支援するNPO法人
起業家による講演	地元ホテル社長
アニメーション制作会社講演	アニメーション制作会社
地元信用金庫・本店見学	地元信用金庫
第5節・進路について	
まとめ	米子松蔭高校

鳥取県
米子松蔭高等学校
塚本保夫教諭



してもらえよう働きかけ、一つ一つ特別授業を実現していきました。

金融教育と「起業」を学ぶ

た。例えば、地元の金融機関からは「社会的な信用とはなにか」、「地域の経済と国の経済の関係や仕組み、金融との関わり」の講義、市役所には、「買い物（契約）とクーリングオフ」などの金融トラブルの講義、そして、地元商業者には、生徒たちの「まち探検」授業に協力

平成20年度は、情報科学科で学ぶ3年生15名が対象でした。テーマを「若年層の自己破産」や「金銭ト

ラブル」、そして生徒から希望のあった「起業」の3本柱として計21時間のカリキュラムで実施。カリキュラムの前半では、金融・経済の仕組みや社会問題となっているトラブルなどについて、地元の金融・消費者問題の専門家から特別授業を受けました。後半は地元の「起業を支援するNPO法人」の関係者から「地域経済と起業の大切さ」を学び、生徒たちは実際に米子市中心部商店街の「まちなか探検」に出て地元の実態を見学し、商店主へのインタビューなどにより理解を深めました。

続いて、中小企業診断士から「今求められるビジネスは」をテーマに商品知識とマーケティングの指導を受け、生徒自身がビジネスモデルを検討・発案した起業モデルのプレゼンテーションをするという段取りで



特別授業風景



生徒プレゼンテーション

■金融教育特別授業 学生「起業プラン」発表資料（抜粋）





授業を展開しました。生徒たちは地域で起業する意義と目的、ビジネスとして成立させるための方法を学び、13人が5つのチームに分かれて、それぞれが理想とする企業づくり（起業）をまとめました。事業内容と目的、社名やロゴマークの考案まで、いきいきとした活動の様子はプレゼンテーションの内容を見ても伝わってきます。



授業の様子



街なか見学

金融教育と「進路選択」を学ぶ

平成21年度は、商業科でデザインの基本知識や技術を学習するビジネスアートコース3年生の生徒30名を対象に計24時間の特別授業が行われました。テーマは前年と異なり「地域経済」や「進路」をメインとし、特に、「地域経済」では、郊外のロードサイド型の大型店舗に客を奪われて衰退していく米子市中心部商店街の現状と、その復活・活性化を試みる新たな「街づくり」の挑戦について深く考察させたのが特徴です。というのも、同学科の生徒たちは漫画家・アニメーター・声優などを目指して県外に進学する率が高く、将来地元で就職する生徒はほとんどいません。「将来、地元に戻ってきてほしい」の就職先がない現状を踏まえ、新たな土地に根ざし、そこでの街づくりや活性化に興味と理解を育てる教育を目指した」と塚本先生は話します。

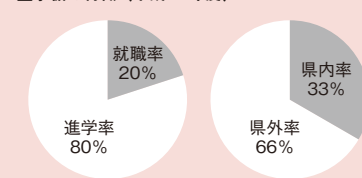
■学年末アンケート 集計結果

番号	質問	回答	結果
①	従来の総合実践と比較して	従来【今まで通り】の方が良かった	2人
		特別授業のほうが良かった	19人
		どちらも言えない	9人
②	特別授業は	勉強（ため）になった（少しでも）	30人
		勉強（ため）にならなかった	0人
		どちらも言えない	0人
③	外部講師の先生の話は	勉強（ため）になった	28人
		勉強（ため）にならなかった	1人
		どちらも言えない	1人
④	この特別授業は	自分の将来のためになったと思う（少しでも）	26人
		あまりためにならなかったと思う	1人
		どちらも言えない	3人
⑤	今後もこの授業は	継続したほうが良いと思う	23人
		従来の総合実践のほうが良い	1人
		どちらも言えない	6人

■学級進路別状況（平成21年度）

	県内	県外
就職	5人	1人
進学【4年生大学】	0人	0人
進学【短期大学】	3人	0人
進学【専門学校】	2人	19人
合計	10人	20人

■学級の特徴（平成21年度）



内容、まず前年同様に消費・金銭トラブルなど身近な経済問題や地域経済を学ぶと同時に、お金の運用や進路について考える授業を展開。地元出身の有名人・アニメーターをゲストに招き、業界で成功するには莫大な製作資金の獲得が重要な鍵になることなど、生徒たちが夢見る将来も、お金の知識抜きでは実現しないという貴重な生の声を聞きました。

教科書では学べない「最新」の情報を

塚本先生はこの金融教育の特別授業で、「高校の教育はあくまで基礎基本の教育であり、社会で実際に役立つものとは違う。今生きている世の中は決して教科書通りではない、というギャップを伝えたかった」と言います。なによりこだわったのは、「最新の情

報」を「その分野の専門家」からレクチャーしてもらおうことと、「地域で育てる」ことです。世の中の「今」を地域にいる身近な大人たちから、実際の体験談や実社会の現状を交えてリアルに伝えることが、生徒たちの心を動かす、というのが塚本先生の「貫いた考え方」です。

実際、1年目の生徒たちは、プレゼンテーションで期待以上の活躍を、「実は自分も起業をしたいと思っていた」と思いがけない告白をする生徒も現れました。2年目の生徒たちも、普段は内気でおとなしいタイプが多かったにもかかわらず、『街づくり連絡会』の大人たちの質問にも躊躇することなくしっかりと自分の考えを述べる姿が見られ、塚本先生を驚かせたと言います。「心の準備をしておくようには言いましたが、方法までは教えなかった。それを立派にやり遂げたことは、想定外の喜びでした。」

「金融教育の必要性」を痛感「これからの挑戦」

22年度以降、金融教育研究校の委嘱が終了してからも、塚本先生の挑

戦は続いています。特別授業をコーディネートして、地域の大人たちが「子どもたちのために」となれば非常に協力的であることに感動を覚えた、と塚本先生は話します。これまで培ってきた地域との人脈や特別授業のノウハウは「誰かに伝えきれるものではなく、私自身が継続させていくもの」であると、研究授業が塚本先生にとつての定番になった自信を覗かせます。そして、「お金の話を観てみるもんじゃない、というタイプも今は昔。悪い人にだまされたい、金銭トラブルに巻き込まれないためにも金融教育は必要」であり、「地元で育った人間は可能な限り地元に戻元できるようにしていきたい」との思いから、今後も「学校の中に地域の力を取り込む金融教育」を展開していくと考えています。

「理想は各教科が各領域のなかで、金融教育を上手にカリキュラムに組み入れることですが、そのためにもまずは私がさらに実績を残していくことだと思えます」と、塚本先生は最後に強い思いを語ってくださいました。

